

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成 29年 10月 18日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 医学研究科 医学専攻 肝胆膵・移植外科

職 名・学 年 博士課程4年

氏 名 小 林 淳 志

| | | | |
|---------------|---|-----------|-----------|
| 助 成 の 種 類 | 平成29年度 ・ 国際研究集会発表助成 | | |
| 研 究 集 会 名 | 第39回欧州臨床栄養・代謝学会 (The 39th ESPEN Congress 2017) | | |
| 発 表 形 式 | <input type="checkbox"/> 招 待 ・ <input type="checkbox"/> 口 頭 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 発 表 題 目 | 肝細胞癌切除症例におけるサルコペニア肥満の意義 Impact of sarcopenic obesity on outcomes in patients undergoing hepatectomy for hepatocellular carcinoma | | |
| 開 催 場 所 | オランダ ハーグ World Forum | | |
| 渡 航 期 間 | 平成 29 年 9 月 8 日 ～ 平成 29 年 9 月 12 日 | | |
| 成 果 の 概 要 | タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有() | | |
| 会 計 報 告 | 交付を受けた助成金額 | 300,000 円 | |
| | 使用した助成金額 | 300,000 円 | |
| | 返納すべき助成金額 | 0 円 | |
| | 助 成 金 の 使 途 内 訳 | 学会参加費(一部) | 80,000 円 |
| | | 渡航費(一部) | 130,000 円 |
| | | 宿泊費(一部) | 80,000 円 |
| その他現地交通費などの一部 | | 10,000 円 | |
| 当財団の助成について | (今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 貴財団のご厚意により、国際学会発表を通じて多くの研究者と討論することができ、学術的な研鑽を積む機会を得ることができました。この度は貴重なご助成を頂き、誠にありがとうございました。 | | |

【学会概要】

学会名：第 39 回欧州臨床栄養代謝学会

The 39th ESPEN Congress 2017

(The European Society for Clinical Nutrition and Metabolism)

開催地：オランダ ハーグ World Forum

開催期間：平成 29 年 9 月 9 日～9 月 12 日

渡航期間：平成 29 年 9 月 8 日～9 月 12 日

【学会内容】

欧州臨床栄養代謝学会 (ESPEN) は、ヨーロッパ圏の栄養代謝学会の最上位に位置づけられる国際学会であり、国際研究集会が毎年開催されている。世界各国の癌治療・手術治療・栄養療法・リハビリ療法に携わる医師・栄養士・理学療法士・看護師等が参加し、国際学会の中でも有数の規模を誇る。学会では最新の臨床及び基礎研究について報告され、消化器外科医・肝胆膵外科医もその中心的役割を担っており、栄養療法・リハビリ療法と手術治療・薬物治療を組み合わせた外科治療の発展に大いに貢献している。

今回の学会は、オランダ第 3 の都市であり、事実上の首都であるハーグで開催され、ヨーロッパ各国、日本、アメリカ合衆国、カナダ、中国、インド、韓国などから 3000 名以上の学会参加者があり、活気に包まれていた。世界各国の栄養代謝学の権威の基調講演や、教育講演、若手研究者の優秀演題発表などを聴講し、最新の知見を得ることができた。ポスター会場では臨床栄養の様々なトピックスについて、多数の発表が行われており、私の今回の発表のテーマであるサルコペニアについても世界各国の演者による発表が行われており、大変刺激になるものであった。

【発表内容】

今回、「肝細胞癌切除症例におけるサルコペニア肥満の意義 Impact of sarcopenic obesity on outcomes in patients undergoing hepatectomy for hepatocellular carcinoma」というタイトルで、以下の内容の発表を行った。

サルコペニアは進行性および全身性の骨格筋量と筋力の低下を特徴とする症候群と定義され、様々な外科手術後の予後不良因子と報告されている。また、肥満は肝細胞癌発症の危険因子である。しかしながら、肝細胞癌におけるサルコペニア肥満の意義は明らかではない。そこで肝細胞癌切除症例におけるサルコペニア肥満の意義について検討した。対象は 2005 年 4 月から 2015 年 3 月までに当院で肝細胞癌に対し初回肝

切除を施行した 465 例。骨格筋量と内臓脂肪は単純 CT にてそれぞれ第 3 腰椎レベルでの骨格筋指数 SMI (skeletal muscle index)、臍部レベルでの内臓脂肪を計測した。既報のカットオフ値を用いてサルコペニア、肥満を分類し、正常群 (NN)、非サルコペニア肥満群 (NO)、サルコペニア非肥満群 (SN)、サルコペニア肥満群 (SO) の 4 群に分類した。肝細胞癌切除後生存率、無再発生存率を NN と各群間で比較、また、肝細胞癌術後予後不良因子 (多変量解析) を検討した。結果は 465 例中 184 例 (39.6%) が NN、219 例 (47.0%) が NO、31 例 (6.7%) が SN、31 例 (6.7%) が SO であった。生存率、無再発生存率は共に SO で有意に低下していた。多変量解析においても SO が生存独立危険因子 ($P=0.002$)、再発独立危険因子 ($P=0.003$) と、肝細胞癌切除症例において、サルコペニア肥満は生存・再発の独立危険因子であった。

なお、本発表で得られた知見も含め、今回の発表内容を英文論文投稿し、先日、外科学の主要雑誌の一つである *Annals of Surgery* 誌に掲載されることが決定となった。このような主要雑誌に論文掲載されることになったのも、今回の貴財団からの助成により国際学会での発表が可能となったことによる恩恵が大きいと、心より感謝しております。今後の自身のさらなる研究に、本学会で得られた知見を活かしていきたいと思っております。